

加藤登紀子

チャリティーコンサート

～長生炭鉱水没事故犠牲者

追悼碑建立に向けて～

9月25日（日）15：30開演
宇部市 「渡辺翁記念会館」

動員目標 1000 人！ 会場を埋め尽くそう！！
あの加藤登紀子さんが、長生炭鉱の犠牲者のために歌ってくれます。

～ただいま、スタッフ募集中！～

友人、知人をたくさん誘ってください！

皆でコンサートを成功させましょう！！

【追悼集会に寄せられたビデオレターの内容要約】

追悼集会にお集まりの皆さん。今度 9 月 25 日に、碑を建てるためのチャリティーコンサートに行きます。・・・私は、事故が起こった翌年に満州で生まれました。・・・今、加害国、被害国どちらにとってもその後をどう生きてきたのかをみつめる大事な時期にきています。・・・歴史を知らない若い人たちにこの戦争の事実を知らせなければいけない。これからの大陸との関係をすばらしいものにしていくために・・・。

皆さんにお会いできるのを楽しみにしています。

By 加藤登紀子



※加藤登紀子さんのビデオレターは、「刻む会」のホームページで見ることができます！是非アクセスしてくださいね！

刻む会 たより

No.42

2011. 03. 25

長生炭鉱の“水非常”を歴史に刻む会

代表 山口武信

事務局 宇部市常盤町一―一九（宇部緑橋教会内）

TEL 〇八三六（二一）八〇〇三

活動カンパ

振込先 ゆうちよ銀行 口座番号 015900732405

追悼碑建立募金

振込先 ゆうちよ銀行 口座番号 0137009986003

ホームページ

<http://chouseikizamukai-hp.web.infoseek.co.jp/index.htm>

日本政府はドイツのように過去を記憶し、『歴史の真実』に目を向けてほしい！

2011年長生炭鉱“水非常”69周年追悼式・追悼集会

―― 涙が止まらなかった証言集会 ――

北九州市 ■ 内岡貞雄

1. 遺族によるチェサと献花

1月29日(土)、やや風があつたが天候にめぐまれたなか、69周年追悼式が床波の追悼碑建立予定地で行なわれた。まず5人の遺族の方々によりチェサ(追悼の祭祠)がとり行われた。チェサの備え物は、タラ・干し柿・みかん・りんご・なし・なつめ・栗・干し柿・干物などが並んだ。厳肅なチェサの後、遺族会の楊玄(ヤン・ヒョン)副会長が弔辞をハングルで読まれた。弔辞を聞きながら、加害者の日本人として反省を迫られる内容や遺族の方々の「恨」の思いをしつかりと受け止めたいと思った。

その後一行は、献花のため長生海岸に降り立った。直系の息子にあたる全錫虎(チョン・ソク)さんは両膝をつき、「沖のピーヤ」に向かって「アボジー！アボジー！」と数回にわたり叫ばれた。「お父さん！」と叫んだのは、無意識に出た日本語だったのだろうか。錫虎さんは語られる。「私はピーヤの見えるこの海岸に1993年から18年間続

けて来ています。私はここに立つてはじめて、『アボジー』と大声を出して言えるのです。今は韓国の大邸(テグ)に住んでいます、そこでは声に出し



海の底に眠るアボジに献花する

パク・ウォンギュさん(右から2人目)たち遺族のみなさん

てアボジーと言うことはありません」。

その横で、朴源奎(パク・ウォンギュ)さんが大きく両手を広げ、「アボジー！アボジー！」と一段と大きな声で叫ばれていた。源奎さんが4歳の時(1941年)、アボジが日本の警察に強制連行され、彼の「恨」の思いは一段と深いものがあるように感じられた。源奎さんは目から大粒の涙を流しながら、「沖のピーヤ」に向かって思いの丈を吐き出されておられた。

申載鳳(シン・ジェボン)さんは3歳まで長生炭鉱の社宅に住んでいたが、当時の記憶はほとんど残っていないという。載鳳さんが事故現場の方向を、凝視し続けていた姿がとても印象に残った。おそらくアボジの「恨」や、事故後、オモニが自分たちを育てるため長生炭鉱で仕事をしたが、それは「言葉にならないほどの苦労だった」ことなどに思いを馳せているのだろうと、私は思った。

金享洙(キム・ヒョンス)会長も楊副会長も献花のあと、「沖のピーヤ」にしばし頭を下げ、心の思いをじつと噛み締められていた。

2. 「私たちの証言」を

しっかりと受け止めてください！

今年から山口県庁と宇部市役所への表敬訪問は取りやめになった。韓国遺族会での話し合いの結果である。「17年間も聞き続けた『言い訳めいた言葉』はもうたくさんです。それよりも私たち

の証言(思い)を、集会参加者の皆さんに是非受け止めていただきたい」。そういう遺族の皆さんの思いを大切に、今年は西岐波ふれあいセンターに場所を移して3時間あまりの追悼集会を行った。

今集会には駐日韓国広島総領事代理の金芝英副領事をはじめ、山口県知事代理の国森宏課長(県地域振興部観光交流局国際課)や宇部市長代理の下瀬亨課長(市健康福祉部社会福祉課)らが出席し挨拶を行なった。休憩後、「アボジは海の底」(音楽と声の吹き込みはパトローネ編集委員の岩崎裕次さん)のビデオ上映、続いて私たちが長生炭鉱犠牲者追悼碑建立にむけ「加藤登紀子チャリティーショー」を計画中ということもあり、そのPRを兼ねて「加藤登紀子さんのビデオレター」を流した。(日時：2011年9月25日(日)15：30開演、宇部市民会館)加藤登紀子さんは「長生炭鉱水没事故(1942年)」の翌年に中国のハルビンで生まれ、敗戦をこの地で迎えられた。彼女は「このチャリティーコンサート」の趣旨にとっても共感してくださり、9月25日当日を今から心待ちにしておられる様子であった。(刻む会会員の読者の方々も是非ご参加ください)

集会の後半は遺族の方々の証言であった。ここでは直系の3人の息子さんの証言を中心に報告する。(通訳は春川(チュンチョン)在住の堤美貴

さんが行なった)

朴源奎(パク・ウオング)さんは1937年生まれの75歳である。源奎さんが4歳の時、アボジが日本の警察によって強制連行された。慶州(キョンジュ)在住の源奎さんは、持参した戸籍謄本を手に「ここにアボジが亡くなった場所、すなわち長生炭鉱の場所が書かれている」と怒りをぐつとこらえて言われた。さらに、「弱いものには強く、強いものには弱い」という日本政府のやり方は、21世紀の時代には通用しない。日本国や山口県・宇部市は、水没事故は一企業が起したものだから『私たちには関係ない』という態度を取らないでほしい」と訴えられた。そして、「在日韓国・朝鮮人の方々をわが家族、大切な仲間として考えてゆきたい」と話された言葉が印象に残った。源奎さんは現在、アジア太平洋戦争の韓国人犠牲者に対する補償を求める会の一員として、日々頑張っておられる。

申載鳳(シン・ジェボン)さんは1939年生まれの73歳で、3歳まで長生炭鉱の社宅で生活した。弟と妹も日本で生まれている。現在は京畿道の富川(プーチョン)に在住する。水没事故の後、母(オモニ)は姉を含めた4人の子どもを養うため、長生炭鉱の坑内で仕事をした。「坑内の暑さやきつさなど、男性でもつらい仕事を私たちの

証言を行うシン・ジェボンさん
(左は通訳の堤さん)



ために歯を食いしばって母は仕事をされた。後年、石炭記念館で坑内作業の仕事を目にした時、母はこのような姿で働かれたのかと思うと涙が止まりませんでした。父親が亡くなったのはとてもショックでしたが、母が私たち子どものために必死に働いたことを、私は決して忘れません。『事故後も長生炭鉱の坑道内は絶えず水漏れがあり、漁船のエンジン音が手に取るようにはつきりと聞こえた』と母は言っていました。帰国後も、母は懸命に働き私を大学そして大学院まで行かせてくださった。私は母に対し感謝しても感謝しきれない思いで一杯であります。(卒業後、載鳳さんは長い間にわたり高校の英語の先生を勤められた)

全錫虎(チョン・ソツコ)さんは1933年生

まれの79歳である。事故当時は長生炭鉱近くの西岐波小学校の5年生であった。1942年2月3日の午前中、先生から「炭鉱で水没事故が起こつたからすぐ帰るように」と言われた。「学校のグラウンドに走ると、ピーヤの辺りに水柱が上がっていた。長生炭鉱の坑口まで走つた。そこではみんなが『アイゴー!アイゴー!』と大声で叫んでいた。わたしは何か大変なことが起きたということしかわからなかった」。その後、錫虎さん一家は社宅を追い出され、母はどぶろくを売ったり、下関まで「山口タクワン」(その起源は1895年西岐波の農家)を売りに行ったり、それは苦しい生活の連続だった。また、学校では「朝鮮人はニンニクくさい」と言われ、私はいつも差別された。錫虎さんは、「本当は使いたくありません」という日本語で、「日本政府は悪いです」「ニンニクくさいと差別された」と訴えられた。その思いは会場の参加者の胸に確実に伝わったとおもう。

翌30日(日)は、遺族会の方々と刻む会のメンバーが「追悼碑建立に関する」意見交流を行なった。お互いに忌憚のない意見を出し合つて有意義な話し合いであった。こうした意見交流の場を積み重ねて、今後もお互いの会の共通理解を一層深めていきたい。

3. おわりに

(遺族の方々と心から追悼できる碑の建立を)

1992年に韓国遺族会が大邸(テグ)で結成された時の会員は65名であったが、昨年2010年には会員は30数名になっている。うち直系遺族は20数名であり、会員の高齢化がどんどん進んでいる。一方、「刻む会」や「建立委員会」のメンバーも高齢化しており、私たちに残された時間はあまり多くない。

昨年2010年1月31日の68周年追悼集会から、目標金額2,000万円を掲げた「追悼碑建立のための募金活動」が始まっている。しかし、現時点(2011年3月)では募金状況はまだ不十分である。私たちは募金パンフを6,000部作成し、さまざまな市民団体や個人を通して宇部市及び県内外にパンフを配布しているところですが、是非、読者の皆様のご協力・ご支援をお願い申し上げます!(賛同者も募集中です!)

なお、「刻む会」では追悼碑建立について次のような確認を行なっているところです。

- ① 犠牲者183名全員の名前を刻むが、朝鮮人犠牲者137名はできるだけ本名で刻む。(現在29名の方々の本名が不明)
- ② 碑文には日本人としての謝罪文を入れる。
- ③ 遺族会の意見を尊重する。

チェーサの様子

※今年は、例年とは形式を変えて、チェーサは遺族を中心とした儀式として集会と切り離しました。



- ④ 遺族の方々が心からチェーサや追悼を行なえる場所にする。
- ⑤ ピーヤが見えるように場所はかさ上げするかあるいはさまざまな工夫をする。

2011年1月29日長生炭鉱犠牲者追悼式プログラム



○開会挨拶(井上洋子)

○主催者挨拶(山口武信)



○韓国遺族会挨拶(金亨洙)



裴基秀長老への謝辞

○来賓挨拶

・在日韓国広島総領事代理

金芝英副領事



・山口県知事代理

国森宏(山口県地域振興部観光交流局国際課課長)



・宇部市市長代理

下瀬 亨(健康福祉部社会福祉課課長)

○追悼碑建立委員会アピール(小川信)



○碑文朗読

(休憩)

○ビデオ上映「アボジは海の底」

○ “ 「加藤登紀子ビデオレター」

○証言と対話

・朴源奎(パク・ウォングュ)



・申載鳳(シン・ジェボン)

・全錫虎(チョン・ソッコ)



・楊玄(ヤン・ヒュン)

・金亨洙(キム・ヒョンス)

○追悼歌・アリラン(裴東録)



○閉会挨拶・黙祷(井上洋子)



「刻む会」活動日誌

二〇一〇年

九月一八日(土)

在日朝鮮人歴史・人権月間全
国大会 in 福岡にて報告

一〇月 二日(土) 事務局会議

一〇月 二一日(月) 無窮花堂追悼式参列

一〇月 一三日(水) 「刻む会たよりNo.41」
発送作業

一〇月下旬 第一次募金パンフレット印刷

一一月 四日(日) 宇部市教育委員会文化財

活用推進課との懇談

一一月 六、七日(土、日) 山口県人権・同和

教育研究協議会での報告

とフィールドワーク

一一月 一八日(木) 九州・山口外き連集會

一一月 二日(木) 事務局会議&追悼碑建

立委員会合同会議

一一月 二三日(木) 事務局会議&追悼碑建

立委員会合同会議

一一月 三〇日(木) 追悼集會案内発送作業

一二月下旬 第二次募金パンフレット印刷

二〇一一年

一月 一六日(日) 平和憲法ネットワーク「湯
浅誠講演会」でアピール

一月 二四日(月) 宇部市長との懇談会(要
請書提出)

一月 二九日(土) 遺族来日・チエーサ・追
悼集會

一月 三〇日(日) 追悼碑に關しての遺族と
の話し合い

二月 二日(土) 事務局會議&建立委員會
合同會議

二月 四日(金) 宇部市教育委員會文化財
活用推進室から回答書を受
領

二月 一八日(金) 宇部市長に對する要望書
を提出

三月 二日(土) 事務局會議&建立委員會
合同會議

三月 二二日(土) 加藤登紀子チャリティ
コンサート実行委員會準備
會

引き続き・・・
追悼碑建立のための募金に
ご協力よろしくお願いします！



目標2,000万円！ 現在3,579,728円(2011年2月末) 目標まで約1,650万円！

追悼碑建立募金報告（2010年3月1日～2011年2月28日受付分）丸数字は回数

- (個人) 赤間 至② 秋山 淳子 秋好 美恵 麻野 他郎② 浅野 直人 綾野礼矢子
 安溪 遊地② 安良淑 李 相福 李克演 石谷 忠之 石川 宣道
 石飛 宏② 伊藤 成彦 猪股 清子 猪股 行夫 猪股 恵子 岩本 乾治
 上野 智子 浮田 正夫 宇佐美睦朗 牛見 信夫 内岡 貞雄 内岡三枝子②
 江柄 勝雄 江木 鶴子 江口 広子 遠藤 巖 大井 典子 大隅 督子
 大友 陽子② 大山 嘉夫 岡崎 絹江 岡田 淳子② 岡田 雅宏 岡田美代子
 岡本 愛子② 岡本 肇 小瀧 智恵 尾原 邦彦 折田 友子 笠松 正俊
 片桐 元 加藤 好美 金澤 正善 神谷 顕史 川上 和恒 姜 泰王
 韓 孝子 木岡 薫子 木岡 靖司 金 清一 金 優 木村 郁恵
 木村 和彦 久保 正代 熊谷 仲美 鋏野 保雄 河内山宏司 香渡 清則
 小林よう子 斉藤 秀子 斉藤美代子 坂 貞子 佐藤 博 沢村 裕
 沢村 和世 篠原 智 鈴木 澈 澄田亀三郎 武田 利邦 田中トシエ
 田中 親子 谷本 育紀 田村 務 鄭 美連 鄭貴順 塚田 勲・恵子②
 津村 幸子 津森 操 利重 迪子② 殿河内恭子 鳥野小百合 中原 美子
 中光 弘治 中村 光則 中村 康江 西村 章 野添 憲治
 野村 豊子 萩尾 楯子 朴 珍沢 朴 唯新 花田 克己 土生眞佐子
 濱崎 利範 浜野 勝 東島 勇人 飛田 雄一② 福井 逸治 福島 直子②
 藤井 和義⑪ 古岡 仁久 裴 東録 堀池 真司 牧野 哲 松崎 孝一
 真鍋みどり 萬代 聡子 三井 厚生 三浦 翠 三賀森栄子 御手洗文良
 宮田 幸好 宮本 弘 三砂 貴敬 村田 久 室田 元美 森永 肇子③
 森山 武昭 師井由起子 山口 武信② 山下 睦子 山本 直好 横田 明典
 吉村 之男 依田 康子 和田 方義
- (団体) 外登法の抜本的改正を求める九州・山口キリスト者連絡協議会 在日大韓基督教会小倉教会
 在日本朝鮮人総連合会山口県本部 9条連 朝鮮総連宇部小野田支部 日朝協会山口県支部③
 日朝友好連帯の会 日本福音ルーテル宇部教会 在日本大韓民国民団 宇部支部
 在日本大韓民国民団 山口県地方本部 山口県人権・同和教育研究協議会②
 山口県労安センター② 山口県職員有志 104名
 (以下、日本基督教団) 萩教会 下関教会婦人会 下関西教会 宇部教会 長府教会
 防府教会② 美祢教会 山口信愛教会 西中国教区山口西分区 西中国教区山口中分区
 宇部緑橋教会
- (その他) 匿名希望など 31 件

以上、募金合計 1,802,915 円。感謝をもってご報告致します。

募金累計は 3,579,728 円（目標 2 千万円に対して 17.9% 2011 年 2 月末現在）。

今後ともご協力のほど、何卒よろしくお願い致します。

お名前の間違いや漏れがありましたらお詫び申し上げます。お手数ですが、事務局までご連絡下さい。

【長生炭鉱水没事故 69 周年犠牲者追悼集会会計報告】

項目	金額
遺族宿泊費	29,880
遺族渡航費	120,000
懇親会	30,750
昼食弁当	4,400
昼食代 (2 日目)	12,190
事務費	3,310
雑費	2,047
合計	202,577